

事例8 自分自身の生活や成長を振り返る活動の留意点を踏まえた事例

○学年 第2学年

○主な領域 自分の成長 内容(9)

○事例のポイント

- ①家庭の事情（特に成育歴や家族構成等）に配慮して単元構成を工夫する。
- ②多様な表現方法を自己選択・自己決定できる時間を工夫する。
- ③気付きの質を高めるために、振り返り表現する活動を工夫する。

ICTを活用した主な学習場面

- ・これまでの活動を振り返る場面
- ・意見を共有する場面

ICT活用の利点

- ①蓄積してきた写真を時系列に振り返ることができ、自分の取組を捉え直し、自分自身の成長に気付きやすくなる。
- ②自分の考えや表現物をクラウド上で全体に共有し、意見をもらうことで、自分の活動に自信をもったり、見直したりするきっかけを得ることができる。

1 単元名 「自分たんけんから、みらいの自分へ」（20時間）

2 単元について

(1) 児童の実態について

本学級の児童は、1、2学期に自分の思いや願いを基に、自分の育てたい野菜を選び栽培活動を行った。毎日水をあげたり、葉っぱについている虫を捕ったりするなど、野菜の成長を楽しみながら世話をすることができた。また、単元の終末は、自分の世話の仕方を振り返る中で、初めは上手く世話をすることができなかったが、世話を続けていく中で、できるようになったことが増えていったことに気付いたり、友達と協力して取り組むことができるようになった自分に気付いたりするなど、自分の成長を感じることができた。2年生の3学期になってからは、3年生になることへの喜びや環境が変わることへの不安を抱いているように感じる。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、児童の実態と小学校学習指導要領の内容(9)を受けて設定したものである。ここでは、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにすることを目指している。

単元を構成するに当たっては、過去の自分と現在の自分とを比較することで、自分自身の生活や成長を見つめ直すことが具体的な活動となる。しかし、低学年の児童にとって、自分の成長を頭の中だけで振り返ることは難しい。そのため、入学当初に書いた絵や行事等のスナップ写真など具体的な手掛かりが必要となる。具体的な手掛かりを基に、1年生の頃の自分を振り返る活動を行ったり、一人一人が自分なりの表現方法で、自分自身の成長を振り返ったりする活動に取り組むことができるようにする。そして、自分が大きくなったこと、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどに気付くことができるようにする。また、意図的・計画的に、全体で自分の考えを共有する時間を設定する。自分の意見を友達に伝えたり、友達の話を聞いたりすることで、自分の考えと比較したり、関連付けたりすることができるようにする。このような活動を通して、自分自身の成長を実感し、さらなる成長を願う心を育み、3年生に向け、意欲的に生活することができるようにする。

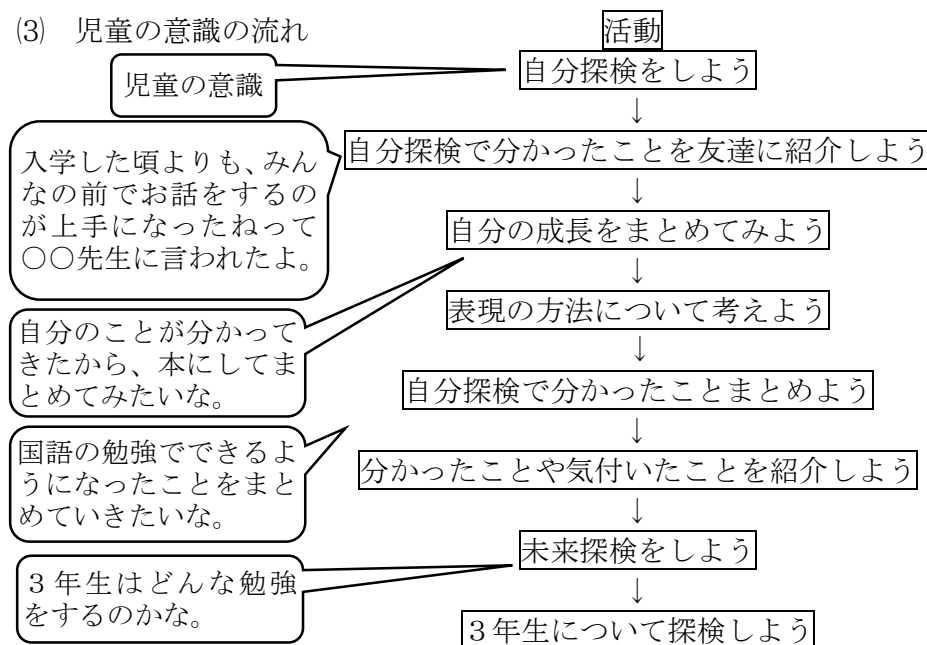
本単元の学習では、自分の成長をどこから振り返るのか自己選択・自己決定することができるよさがある。しかし、様々な事情をもつ家庭があることが想定される。そのため、十分に各家庭状況等に配慮して単元を進める必要がある。

事例のポイント①

児童の家庭状況等については、保護者からの申し出がない情報もあり、全ての状況を把握することは困難であることを前提に、一律に次のような指導をすることは控える。

- ・出生時の写真を持参させる
- ・名前の由来の聞き取りをさせる
- ・母子手帳がないと分からないような出生時の身長、体重を記載させる 等（参考：県教育委員会通知、令和6年4月10日付け教義指第65号）

(3) 児童の意識の流れ



教師の働きかけ

児童の思いや願いを基に、自分探検をおこなうことができるようにする。

自分探検をおこなう際には、家庭状況等に配慮して、自分探検をおこなうことができるようにする。

単元の中に、自己選択・自己決定できる時間を設定し、表現方法や探検の仕方などを自分なりの方法でおこなうことができるようにする。

自分探検をおこなう中で、未来についても考えることができるようにする。

3 単元の目標

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

4 単元の評価規準と小単元の評価規準 (20 時間扱い)

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準		自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
小単元 の 評価 規 準	1 自分たんけんをしよう (6)	①自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。	①過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比べている。	①自分自身の成長に関心を持ち、自分の成長を振り返ろうとしている。
	2 自分たんけんをまとめてみよう (10)	②自分の成長には多くの人々の支えがあったことに気付いている。	②自分の生活や成長について振り返り、自分のよさや成長している自分を捉えている。 ③自分の成長を支えてくれた人と自分との関わりを振り返り表現している。	②自分自身の成長を支えてくれた人々に、自分が成長したことや感謝の気持ちを伝えようとしている。
	3 みらいたんけんをしよう (4)	③これまでの生活を振り返り、自分のよさや可能性に気付いている。	④自分のよさを捉え、これからの生活について考えている。	③これからの生活に見通しを持ち、意欲的に生活しようとしている。

5 指導と評価の計画

小単元名(時数)	主な学習活動	小単元の評価 規準との関連	評価規準から想定した具体的な児童の姿(評価方法)
1 自分たんけんをしよう (6) 事例のポイント① 様々な事情をもつ家庭があることを前提に一律に過去を振り返ることができないようにする。本単元では、児童の実態に応じ、園、1年生、2年生等、振り返りの視点を共有し、振り返る場所を自己選択・自己決定できるようにした。	①これまでの生活を想起して自分探検の方法について考える。(2) ②集めた資料を基に、自分探検をする。(4) 編 P87 指導計画留意事項(1)	知・技① 思・判・表① 態①	・自分がいろいろな面で成長してきたことに気付いている。(発言・ノート・つぶやき) ・過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比べている。(行動・発言・ノート) ・自分の成長について関心をもち、調べたりまとめたりしようとしている。(行動・発言・ノート) ICT活用の利点① ICT端末を活用して、これまで学んできたことを写真等を基に、振り返ることができるようにした。 編 P87 指導計画作成留意事項(6)
2 自分たんけんをまとめよう (10) 事例のポイント② 自分の成長を振り返り表現する方法について考える時間を十分に確保することで、各教科で学んだことを生かしながら、自分なりの方法で表現することができるようにした。 編 P87 指導計画作成留意事項(3)	①これまでの探検を振り返り、探検をしたことをどのようにまとめるのか考える。(1) ②自分探検したことをまとめる。(6) ③友達と交流して、新たな視点で自分探検を行う。(3)	知・技② 思・判・表② 思・判・表③ 態②	・自分の成長には、多くの人々の支えがあったことに気付いている。(発言・作品・つぶやき) ・自分の生活や成長について振り返り、自分のよさや成長している自分を捉えている。(発言・作品・ノート) ・自分の生活や成長について振り返り、自分を支えてくれた人々と自分との関わりについて自分なりに工夫してまとめている。(発言・作品・ノート) ・自分探検したことをもとに、自分の成長を支えてくれた人々に自分の成長や感謝の気持ちを伝えようとしている。(行動・発言・作品) ICT活用の利点② ICT端末を活用して、自分探検をまとめているデータや写真をクラウド上で共有して、互いの活動を価値付けできるようにした。
3 みらいたんけんをしよう (4)	①自分探検したことを友達に紹介する。(1) ②学習を振り返り、3年生でどんなことをがんばっていききたいのか話し合う。(2) ③未来の自分に向けてメッセージをかく。(1)	知・技③ 思・判・表④ 態③	・これまでの生活を振り返り、自分のよさや可能性に気付いている。(発言・作品・ノート) ・自分のよさを捉え、それを生かしていこうと考えている。(発言・ノート) ・3年生に向けてがんばりたいことに見通しをもち、意欲的に生活しようとしている。(行動・発言・ノート) 事例のポイント③ 自分探検をまとめた表現物を基に、交流することで、自分の思いや考えを友達に伝えることができるようにした。

6 本時の学習指導（1／20）

(1) 目標

これまでの生活を振り返る活動を通して、過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比べることができるようにする。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価（●）と支援（○）	時間
1 これまでの生活を振り返る。 ・1年生の時にも、楽しいことやがんばったことが、たくさんあったな。 ・昔をよく見てみると、体つきとかが、結構変わっているね。	○園や1年生、2年生の時の写真や動画等を使いながら、園での生活や学校生活に、どのようなことがあったのか振り返ることができるようにする。 事例のポイント① 指導要録や園の先生、旧担任と家庭状況等について確認を取る等の配慮を行い、児童の過去の様子について振り返ることができるようにした。家庭生活を振り返るのではなく、園や学校での生活を振り返ることで、すべての家庭状況等に対応できるようにした。 むかしの自分といまの自分をくらべてみよう！	5
2 過去の自分と現在の自分を比較する。 ・入学した頃は、あまり友達がいなかったけど、今はたくさんいるな。 ・1年生の時は、簡単な問題しかできなかったけど、今は難しい問題が解けるようになったな。 ・1年生の時は、体が小さかったけど、今は体も大きくなったよ。だから、足も速くなったと思うな。 ・昔は全然泳げなかったけど、今はクロールができるよ。	●過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比べている。 【思・判・表①】（行動・発言・ワークシート） ○いつ頃の自分について調べてみるのか各自で決め、振り返りを行うようにする。 ○I C T端末を利用して、過去の写真やクラウド上の情報を振り返ることができるように、内容ごとにフォルダを整理するなどして児童が振り返りをしやすい環境をつくるようにする。 ○自分の体の変化やできるようになったこと等の振り返りの視点を共有することで、自分について振り返ることができるようにする。 ○児童の振り返りの質を高めるために、教師が児童の実態に応じて、意図的に他の児童を紹介して、交流を促していく。 ○比較することが難しい児童は、具体的な手掛かりや写真を基に、過去→現在の順に自分がどのように過ごしていたのか考えることができるようにする。   事例のポイント① どの時点から自分の成長を振り返り実感するかは、児童によって異なる。そのため振り返る場面を、児童が自己選択、自己決定できるようにした。 I C T活用の利点① I C T端末を利用して、過去の写真やクラウド上の情報を基に、過去の自分と現在の自分を比較することができるようにした。	20
3 比較して分かったことを全体で共有する。 ・みんな昔よりも体が大き	○振り返って分かったことを板書に整理して、現在の自分が過去の自分に比べて、いろいろと変わっていることに気付くことができるようにする。	15

くなっているんだね。私もどれくらい大きくなったのか調べてみたいな。 ・友達が増えたことで、自信が付いて気持ちが強くなっていったのかな。	○過去と現在を比較しやすいように、左右2分割に整理して、板書する。 ○本時の終末に、なぜ変わったのかについて、疑問をもつことができるようにすることで、もっと調べてみたいという思いを高め、自分探検につなげていくようにする。	
事例のポイント③ 過去の自分と現在の自分を全体で比較し、共有する場を設定することで、自分が変わったことに気付いたり、どうして変わったりしたのか考えることができるようにした。		
4 本時の活動を振り返り、次の活動に見通しをもつ。 ・今日は、昔の自分と今の自分を比べることができました。思った以上に、いろいろと変わっていることが多かったので、次の時間はもっと自分のことを調べてみたいと思います。	○もっと調べてみたいという思いや願いを大切にしながら、次の活動につなげることができるようにする。 ○次の活動に必要なものや、もっと活動を充実するために必要なことはどんなことがあるのか問いかけ、自分探検に対する意欲を高めるようにする。 ○振り返ることが難しい児童は、板書や写真を教師とともに見ながら、本時の学びについて振り返ることができるようにする。	5

7 本実践を振り返って

単元を通して、自分の成長を実感するとともに、自分の成長に関わった人々に気付くことが大切である。そのため個での振り返る時間を十分に確保し、自分について捉え直すことができるように、写真やプリント等、具体物を用いて振り返ることができる環境を整えた。特に、これまでの生活を振り返ることができるように、クラウド上で行事や授業内容ごとにフォルダを分けて、写真やプリントなどのデータを見ることができるようにしたことによって、どの児童も問題なく、自分の成長を振り返ることができた。また、過去の自分と比べてみたり、どのように表現するのか考えてみたりするなど意図的に意見を共有する場を設けることで、児童の考えが関連付き、自分を捉え直したり、次の活動への見通しをもったりすることができた。

また本単元は、自分探検の際に、自分の誕生や生育に関わる事柄を扱ったり、家族へのインタビューをしたりする場合も考えられるが、様々な事情をもつ家庭があることを前提に一律の指導を控える必要がある。学習指導要領解説生活科編においても、「どの時点から自分の成長を振り返り実感するかは、児童によって異なる。大切なのは、自分の成長を実感できることであって、一律に過去から順にたどることではない」と明記されており、小学校入学時からの成長を振り返ることでも授業のねらいを達成できる旨が示されている。今後も児童が、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにすることを目指して実践をしていきたい。